

今井城学園通信

社会福祉法人 天使園

児童養護施設

今井城学園

青梅市今井 2-1207-8

発行日 2016年2月

第10号

園長あいさつ

小田川広明

旧年中は、様々な面でご協力を賜り、ありがとうございました。

本年もよろしくお願いいたします。

平成28年になり、早くも1ヶ月余りが過ぎようとしています。また、平成27年度は残りわずかとなってしまいました。

年明け早々から子ども虐待のニュースなども伝えられています。今年は、このような事件が少しでも減る年になって欲しいと思います。

さて、今井城学園では毎年1月に餅つき・百人一首・カルタ大会を行っています。年末に行う餅つきとお正月の行う餅つき意味が違うようです。お正月の餅つきは稲作農家の食文化にあると言われています。農民達は、お祝い事のたびに餅つきをしていました。このお餅には神様からの魂が宿り、生命力が与えられると言い伝えられています。つまり、神様がくれる生命力なのです。子どもたちは、このお餅とたくさん食べ、今年一年元気に生活して欲しいと思います。

お餅をたくさん食べた後は、子どもたち全員で幼児はカルタ又小学生以上は百人一首を行います。毎年、多くの札をとれる子、昨年は余りとれなかったが今年は一生懸命覚えてきた子など様々ですが、毎年子どもたちの成長を感じられる時です。

暖冬と言われていますが、そろそろ寒さも本格化し、インフルエンザが流行る時期になります。皆様のご自愛をお祈りしています。

学園紹介シリーズ

No.10

入所している子どもたちは、様々な厳しい環境で生活してきました。家庭で十分な学習ができていない子どもたちが多くいます。

そのため、今井城学園では子どもたちの学習指導を行う職員を配置しています。

この度、子どもたちの学習指導をしていただける方を募集しています。

もし興味がある方がいらっしゃいましたら、今井城学園までご連絡ください。

対 象 : 中学生

時 間 : 19:00~

時 給 : 1,500円

TEL : 0428-31-2277

週1日から可能です。



性教育委員会より

第2回 委員長 新井 雅菜

今月号では、今井城学園性教育委員会の実践している内容について書かせて頂きます。

性教育委員会では、性（生）に関する本を準備し各ホールへ配布しています。各ホールに置いている本は、金の星社「赤ちゃんが生まれる」、ポプラ社「おちんちんのえほん」、アーニ出版「男の子のからだの絵本」、アーニ出版「女の子のからだの絵本」の4冊であり、成長に伴う体の変化で不安に思う事、気になる事を自分で調べたり、確認したりする為にどのホールにも共通の本を置き、児童が自由に閲覧出来るようにしています。



次に学習会について紹介します。年齢や性別でグループを分け、年に2回の学習会を実施しています。学習会のテーマとしては、「プライベートゾーン」「パーソナルスペース」「ちくちく言葉・ふわふわ言葉」「妊娠・出産・中絶」「月経」「性病」「酒、たばこ」などがあり、参加児童や学習会実施時に必要だと思う内容は何かを検討し、取り組んでいます。

テーマだけでは内容がわからないと思うので、簡単に説明させていただきます。プライベートゾーンとは、「水着で隠す部分、口」の事で、『プライベートゾーンは、人に見せない、触らせない』と伝えていきます。パーソナルスペースとは、「対人との距離感」事で、『腕を伸ばした距離は人との距離を保つように』と教えています。適切な距離感を身に付ける為に必要な学習であると感じています。「ちくちく言葉・ふわふわ言葉」とは、「ちくちく言葉は、相手を傷つけたり、嫌な気持ちにさせる言葉、ふわふわ言葉は、相手を喜ばせたり、嬉しくさせたりする言葉」の事です。子どもたちから意見を聞き、模造紙にまとめて貼っておくと、子どもたちは言葉遣いや話す内容に気を付けようと意識するようになったと感じています。

性は「取り扱いが難しい」と思われがちですが、出来る事から始める事が大切だと考えております。

職員リレーコラム (.) 職員自己紹介 その10

こんにちは。フリーのケアワーカーとして本園の2F、3Fホールと4箇所のグループホームに入り子ども達の支援をさせて頂いている、本多美智子です。在勤13年も経ちましたが無我夢中であつという間の日々だったように思います。フリー職員は色々な所に入る為、それぞれの特徴やフロア職員の気が付かないところも見ることが出来るので、それをプラスにして子ども達のために支援できたらと考えています。また、少しだけ(?)人生を多く歩いて来ているので、日々忙しくしている職員の相談相手になれたらと思っています。子ども達は色々な問題を抱えながら生活しています。でも素晴らしい力を持っています。私達の仕事はすぐに結果が出ず、解決しない事も多々ありますが、子どもの力を信じて子どもと真剣に向き合い、安心して生活出来るように支援していきたいと思いますので、これからも今井城学園を温かく見守ってくださいますよう宜しくお願い致します。



はじめまして。新町にありますグループホーム『みずがき』でケアワーカーとして働かせて頂いている、大仲麻美と申します。『みずがき』では、高校生1人、中学生3人、小学生1人という高齢児が多いホームとなっておりますが、毎日職員・児童共に切磋琢磨しながら過ごしております。私は入職してからずっとホームで勤務をさせて頂いています。入職する前からグループホームでの勤務を希望していた事もあり、非常に嬉しく、毎日楽しい日々を過ごしております。より“家庭的雰囲気”に近いホームにする為、時には児童達と言い合いをする事もありますが、その中で互いに学ぶ事も沢山ある為、今後も子ども達と一緒に成長し、助け合って生活をしていきたいと思っています。今後とも宜しくお願い致します。



ほっと・ファミリー

ファミリー・ソーシャル・ワーカー 吉澤恵子

連載10回目。以前にもご紹介をした事があるかもしれません。再度、「フレンドホーム」についてご案内致したいと思います。「フレンドホーム」とは、東京都が児童養護施設にお預かりしている子どもを、夏休み・冬休み・春休みや日曜・祝日等、学校がお休みの期間に、ご都合の良い数日間お預かり頂きます。お預かり頂く子どもは、おおむね4歳～12歳の子どもです。

- ① 都内にお住まいで18歳以上の家族が2人以上のご家庭で、申し込み者の年齢が25歳以上65歳までの健康な方
- ② 家族の皆さんが児童の福祉に熱意と愛情があり、フレンドホームの期間中養育に専念できる方がいること。
- ③ 児童を預かる事で、家族に支障が起きないこと。
- ④ お預かり頂く子どもの施設まで、送迎が出来ること。

以上が、「フレンドホーム」の条件です。手続きは交流開始前に2回程度施設を訪問して頂いて、子どもと面会を行って頂きます。その後、施設長とファミリーソーシャルワーカーが家庭訪問をさせていただきます。そして、交流がスタート致します。施設にはご家族と全く交流が出来ないケースもたくさんあります。特にお正月期間や夏休み期間に帰省出来ない子ども達は、帰省が出来る子ども達を羨ましく見つめる姿があります。何処にもお泊まりに行けない子ども達に、お泊まりに行ける場所を提供して頂けたら本当にあり



がたい事です。特に何処かへ連れて行く必要はありません。日常の家庭生活を体験する事が大事なので、ご家庭のご都合に合わせて頂いて大丈夫です。家は2部屋で10畳以上を目安としております。もし、ご家庭に来て怪我などした際は、医療費を東京都が負担を致します。少しでも関心がある方は、気軽にお声を掛けて頂けましたらとてもありがたいです。お待ち申し上げます。



こころの窓

心理士 長嶋 彩

最近子ども達の中で「考える力」が低下していると言われていています。困難にぶつかったときすぐ誰かに答えを求めたり、相手が求めていることを先回りして行動せず、言われたことしかしない等、自分の頭でイメージを膨らませて考える機会が減っているようです。

どうしてこのような状態になっているのでしょうか。仮説としてまず考えられるのは、遊びの変化。子ども達が外で遊び回っていることが当たり前だった頃は、秘密基地を作ったり皆で鬼ごっこをしたりと、集団でどうやったら楽しく仲良く遊べるかを、体験的に工夫しながら遊んでいたと思います。一方現在は、携帯電話やゲーム機の普及により室内で出来る遊びが当たり前になっており、遊びを体験的に肌で感じる機会が少なくなっています。もう一つ仮説として考えられるのは、責任感が強く心配性のお父さん・お母さん。我が子が失敗しないよう、何でも先回りをして子どもに答えを教えるあげると、答えを得た子どもは考える必要も機会もないので、「考える力」は育ちません。反対に子どもが何をすることも「ダメ！」と叱り、子どもの行動を止めてしまうことも、結果は同じです。

では、どうしたら子ども達の「考える力」は育つのでしょうか。今ここで皆さんも考えてみてください。…何か思いつきましたか？まずは今のようにその場に留まり、考える機会を設けることです。そのためには子どもが何か疑問を持ったときがチャンス。その疑問に大人はすぐに答えを提示せず、例えわかりきったことであっても、その事について子どもと一緒に考えてあげてください。「どうしたらその疑問の答えがわかるかな？」「〇〇が□□なのはなぜだろう？」など、大人が返答を工夫することによって、子どもは自然と考える習慣が身につけていきます。疑問を解決するために、一緒に本で調べ物をしてもらうのも良いですね。「考える力」を日常的に身に付けることは、その場の問題に対処するための「問題解決能力」を育むことにも繋がります。

レッツ・クッキング

栄養士 原口康子

お正月にお餅などを食べ過ぎて、「胃の調子が悪くて・・・」「消化が・・・」という方も多いのではないのでしょうか？それでもご飯を食べないわけにはいきませんよね。そんなときに消化を助けてくれる食材！『長芋』はいかがでしょうか？長芋はアミラーゼやジアスターゼなどの消化酵素を多く含んでいるため、消化促進作用が抜群です。また、食物繊維の一種で、ぬめり成分であるムチンは細胞を活性化させる働きがあり、老化防止、疲労回復、便秘の改善に効果があると言われています。そこで、とっても簡単！当園で静かな人気の『とろろご飯』をご紹介しますと思います。

【とろろご飯】

〈作り方〉

〈材料〉(4人分)

米(十六穀米入り) 適量

長芋 380g

水 1cupと大1

だし(顆粒) 小1/2弱

味噌 大2と1/2

刻み海苔 お好みで

①水を沸騰させ、だし・味噌を入れ溶かす。

②長芋をする。

③①が冷めたところで②の中に入れ、混ぜる。

④器に入れ、刻み海苔や青のりをのせて完成。

※すり鉢がご家庭にある方は、③の工程をすり鉢+すりこぎ(棒)でこすりながら混ぜると、なめらかな『とろろが』できるのでごしがとても良くなります。



「できない」ことの意味

学習指導員 藤野哲夫

私は以前、「私たちには真理を求める心が、生まれつき内蔵されているのではないか」と書きました。しかし、「平方根って何だ?」とか、「言いたいことがどうしても文にできない」など、分からないこと、できないことが私たちにはたくさんあります。

これは、私たちがもともと不完全で、限界を持っているためでしょう。では私たちは、完全なるもの、真なるものに達することは諦めなければならないのでしょうか。

しかし、「連立方程式が解けるようになった」とか、「英語の文型がだんだん分かるようになってきた」というように、分からなかったことが分かるようになり、できなかったことができるようになるということが、事実として何度も自分に起こってきたことを私たちは経験的に知っています。

その意味で、私たちは完全なるもの、真なるものに限りなく近づくことができると言ってよいのではないかと思います。不完全なものとして限界を持つことから免れることができず、しかし全く同時に、無限の可能性を秘めた存在、それが私たちではないでしょうか。

大人も子どもも、真理を探究するという共同性を持っています。ですから教えることが必要なときも、子どもの反応をよく確かめることが大切です。つまり相互の協力が必要です。私は子どもたちとともに学習する共働者でありたいと願っています。



編集後記 おかげさまで「今井城学園通信」第10号を発行することができました。この通信を通じて、今井城学園を地域の皆様幅広く知っていただき、職員の持つ専門知識が皆様の生活に少しでもお役に立てればと願っています。記事の内容に関して、ご質問、ご要望等がございましたら、下記の連絡先まで遠慮なくご連絡ください。(編集委員)

今井城学園 電話 0428-31-2277 e-メール info@imaijyo.or.jp

ホームページ <http://www.imaijyo.or.jp>